



市長と

車座トーク

第30回 内浦学区（概要）



開催日時 2017年（平成29年）8月10日（木）

19:30～20:30

開催場所 内浦公民館 会議室

参加者数 8人

次 第 市長のあいさつ

意見交換

地域からまとめのあいさつ



<車座トークでの主なご意見>

- ・田島東部では平成20年、猪被害が続出し、地域の安全確保・被害軽減のため自治会として取組を始めた。猪の捕獲をするためには毎年猟友会費、登録費用等が2万円から2万5千円かかる。これを自治会費用で取得し、猟友会の捕獲班での捕獲・駆除を行っている。しかし、一頭につき市から支払われる報奨金4,000円のうち2,000円は地元がもらう約束であったが、ここ3年支払いが滞っている。他団体のこととはいえ、何らかの働きかけをしていただきたい、と同時に、猟友会への入会・狩猟登録をしなくても、自分たちの安全安心、被・危害減少のために被害を受けている者が箱罠を設置し、駆除ができるような方策があれば考えてほしい。

- ・田島東部地区のバスの路線について、福山市は赤字路線の廃止を検討しているとのことだが、田島東部路線に対する赤字額とその補填状況、また、赤字路線の箱崎線に対して、今後どのように対応するかお聞きしたい。
- ・海と山と自然とに囲まれた当学区では、福山市からのまちづくり事業助成金を受け、まちづくり事業としてさまざまな事業、行事を行い、絆あふれるまちづくりに取組み、世代間のバトンを繋いでいる。一方、自治会やまちづくりの役員を受け継ぐ人が年々少なくなり、ますます多忙化していく傾向にある。生き甲斐とやり甲斐と魅力あるまちづくり実現のため、引き続き、まちづくり事業助成金をはじめ、さまざまな支援をお願いしたい。
- ・学校再編について、小規模校だからという理由で、内浦小学校をなくさないでほしい。内浦小学校は小さな学校ながら、どこにもない教育環境を備えている。運動会、通学路の草取りと、校内清掃、排水路の掃除、食事会、地域文化祭など、いろいろな行事を地域と学校、児童、保護者が協力し合って取組んでいる。海と山と自然に恵まれ、地域と密着した良好な環境の中で内浦の児童は、さまざまな経験と、地域とのふれあいを通して日々成長している。複式学級解消や教育の効率化、情報化時代への対応を掲げた学校統合だが、福山市の都合でなく、住民の願いをきちんと受け止め、ふるさとをいっぱい吸収して育つ教育を求める。児童の人数が少ないという理由で地域から学校をなくそうとする教育委員会の統合案には正直、とても困惑している。
- ・内浦学区で車座トークを開催するに当たって、この内海町の自然豊かな環境を何箇所かは見られたと思うが、どのように感じられたか。そして、この福山市をとりまく30キロ圏内の中山間地域との共同事業についての構想はあるか。この内海町・田島という、海と山の自然が与えてくれる癒しの環境で、高齢者の方が安心して暮らせるシルバーアイランドや、セラピーアイランドとしての地域の特性を活かした構図は考えているか。
- ・青少年育成員連絡協議会役員も高齢化に伴い、後任の役員をお願いする人がいない状況になっている。できれば、15人からという定員数を、ここの地区なら10人ぐらいからにしてもらえれば助かる。学校規模の大小に関わらず将来ふるさとを背負っていく子どものためにローズマインドの浸透と、人づくりを中心としたまちづくりに、一層のお力添えをお願いしたい。
- ・地域ふれあいサロン、喫茶サロンを定期的で開催し、高齢者の方々から大変喜ばれている。しかし、一人でも多くの方々に参加してもらいたいと思いつつも、一人で参加できない高齢者や、家から出られない高齢者はサロンの対象外となっている。送迎について何かよい方法はないか。また、今サロン等で、頑張ってボランティア活動している我々世代が高齢化したときに、十分な介護サービスが受けられないという社会的状況も考えられるという話も聞くが、福山市の介護施策と介護保険料負担軽減についてお聞きしたい。さらに、内浦地区では高齢者サロン会場として多目的集会所を利用しているが、大広間入り口の大きな段差を手すりなしで昇降してもらっている。加えて、重い引き戸を開けてやっと和室に入っている。高齢者には想像以上に大きな負担となっている。手すり設置や段差、重い引き戸への対応などをお願いしたい。

- ・行政が責任を持って進めるべき事業・内容が、ややもすれば、自治会連合会組織を通して、請負事業のように何かと実施されているような思いがする。特に自治会役員の後継者不足で、高齢化が急速に進んでいるうえ、次から次へと市役所からいろんな依頼が行われ、役員会や研修会、講習会等の出席回数も増え、役員の負担は大変大きなものになっている。このような実情をどのように考えておられるのか伺いたい。
- ・敬老会については、その運営のための実行委員会の役員の約半数が敬老対象者という実態が起こっている。元来、お祝いをしてもらうはずの人が、他の敬老者のお祝いをするという、大変不自然な状況が生まれている実態はこの学区だけでない。同時に、会場については、バリアフリーで空調施設の整った施設で行える学区、交通機関の充実している学区もあれば、扇風機など他の施設から運搬などして会場を準備しなければならない等、大変苦労している学区もある。このような実情が多々ある中、福山市としてこの先の将来、敬老会事業を継続するために、どのように考えているのか示していただきたい。
- ・地方創生という言葉が叫ばれて3年が経過しようとしている。この言葉を最初に聞いたときには内海町のように過疎が進行し、衰退していく地域を活性化させる、そういう地域振興策かと期待していたが、どうもそうではなかったと思っている。市長は内閣審議官として地方創生に取組まれた経験から、地方創生の目指すところ、また、その国の政策を受けて、福山市としてはどのような施策が現在展開されているのか、教えていただきたい。

<市長のまとめ>

- ・猪被害にかかわる件について、ルール通りにいってない、申入れが伝わらないということについては、本来、地域の問題であって、地域で解決するのが基本であるが猟友会には伝える。規制緩和をして、猟友会へ入って狩猟登録をしなくても、捕獲できるかどうかについては、調べさせて欲しい。
- ・これまでは利用客が少なくても、市が補助金を出してバス路線は維持するというやり方をしてきたが、これから先、さらに少子高齢化の時代になって、維持するべきかについて検討している。住民のみなさんで議論をして決めようということで8月8日にここで話し合い、それを整理して、また議論していきたい。
- ・まちづくりの推進事業については、少子化が進み、福山市の税収が減っていく中で、地域の維持の仕方を考えないといけない時代に入ってくる。当面は、地域の活動に対する支援はなんとか工夫しながら続けていきたいと思っている。
- ・児童数が減ったから、小さな学校は望ましくないから、非効率だから、という理由で、学校の再編について話し合いをしているのではなく、教育委員会も、民間の教育委員も含めて、住民の声も聞きながら、計画を立てている。今までとは違ったやり方で地域の維持を考えていかないといけない。ぜひ、子どものためにどうしてあげるのが一番いいのか論点を絞って議論をさせていただきたい。
- ・今、民泊をすすめているが、県内で民泊に取り組んでいる人たちから見ても、この内海の民

泊の魅力は特別である。内海の活性化を維持し、増大するという可能性も大いにある。ぜひ頑張ってください。行政は内海の将来について一緒になって勉強したいと思う。30キロ以内の共同作業の最も可能性のある事業の一つとしてやりたいと思う。

- ・青少年育成員連絡協議会役員の人数は学区の規模によって弾力的に考えて頂いてかまわない。15人はあくまで一定の目安と考えてほしい。みなさんが、10人で大丈夫だと言うのであれば、それでもかまわない。
- ・介護サービスが十分にいきわたらないという不安が現実のものになりかねない。そうならないために介護を受ける人が増えないようにする。健康づくりを進めることによって、要介護に認定される市民の数を減らしていく。また、一人暮らしの高齢者の人たちの送迎については、検討課題とする。集会所のバリアフリー、老朽化対策等の対応については修繕の検討を行っていききたい。改めて、支所長に見に行ってもらおう。
- ・本来行政がやるべき話が地域に押し付けられていないかという懸念については、どういう状況かを一度確認する。いろいろな連絡も、講習会で集まってもらうという負担をかけない方式を考えてみたい。そのためにも、学区の自治会やまちづくり推進委員会の役員のみなさん方と市との意思疎通をしっかりとしていきたい。役員のみなさん方には、そういう意味では協力を頂きながら地域の負担が少なくなるようにしたい。
- ・敬老対象者自身が敬老会の準備をしていることは、本意ではない。敬老会はとても楽しみにされている事業の一つだと聞いているだけに、続けて行きたいと思っている。敬老会をやるにあたって、行政と地域の役割分担の上、地域でできることについては、若い人の協力を取り付けるように、高齢者が孤立をしないように、みんなで協力して欲しいと思う。
- ・地方創生は、一歩間違えると言葉が踊るだけ、或いは地方創生の助成金に頼るだけと、一過性の取組に終わる。自分たちが本当に取り組まないと地域はよくなっていかない。新しいことする必要はない。我々は、民泊の動きについては、努力を惜しまない。実際皆さん方は普通の風景だと思っておるこの風景が、他者から見ると素晴らしい。ぜひ、大切にしていきたいでしょう。

<地域からのあいさつ>

市長さんはじめ、みなさん暑い中、また夜分にもかかわらずご出席いただき、また、いろんな意見もありましたので、市とも情報交換をしながら、また、地域の発展のために尽くしていきたいと考えております。本日は、どうもありがとうございました。